

継続事業評価シート

評価確定日 令和元年 6月20日

平成30年度(2年目)

事業コード	2	事業名	事業者のライフステージグループ分け			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	湖東3町商工会	担当者名	鈴木康記	総轄者名	菊地功	施策コード	1	施策名	ライフステージに合わせた経営課題解決のための伴走型個社支援の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

小規模事業者の経営環境が年々厳しくなり、問題も多様化していることから、既存の基礎支援だけでは経営の持続には不足である。経営力向上に向けた取り組みが出来るよう、個々の現在の経営状況を分析し、経営計画を策定することが喫緊の課題となっている。

2. 事業のねらい

事業コード1の結果を受け、個社個社にマッチした支援を提供し、経営計画の策定(ブラッシュアップ)と遂行を伴走支援する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30		H31		H32
-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

ライフステージ分けにより、創業支援、市場拡大支援、経営改善・経営革新支援、事業承継支援、再生支援といった取り組みにスムーズに移行出来ている。小規模事業者がどの成長段階にあるか日々意識しながら対応している。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

施策3の評価指標では創業支援、事業承継支援の件数が目標値を下回っている。今後はライフステージ分けを活用した、創業や新事業展開の支援、青年部等を対象とした第三者への事業承継支援を強化し解決提案型支援の向上に取り組んでいく。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
巡回強化によるヒアリングによって個社個社のライフステージを見極め、求められる経営持続発展のための施策を提案・実行支援する。	巡回強化 情報提供⇒現状分析 H30目標 40% 実績 22.7%(H28.28.3%) 現状分析⇒解決提案 20% 105%(H28.16.9%)	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目						項目						項目					
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	b
--	---

〈評価の理由〉

ライフステージ分けが記載されているヒアリングシートを携帯し巡回している。少しずつであるが、ヒアリングシートが蓄積されつつあり、企業の成長が現在どの位置にあるのか把握し、成長に合わせた支援を実施している。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	b
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

巡回による現状分析の割合が低水準であるが、連合会が推進する解決提案、実行支援を優先し取り組んでいることが要因である。ライフステージ分けは支援を実施する上で重要なデータのひとつであり、この取り組みは有効と判断する。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	b
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

事業所の成長過程におけるライフステージを明確することは、支援の効率を図る上で有効である。巡回相談支援の件数は前年度より若干下回ったが、解決提案、実行支援の実施割合が30.8%と目標を超えており、ヒアリングシートを活用することで、巡回相談支援の質や、支援効率が前年度より向上したと判断する。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
---	---

事業所のライフステージのグループ分けは事業所の成長過程把握と、それに合わせた支援を実施することが出来た。イフステージ分けにより、創業支援、市場拡大支援、経営改善・経営革新支援、事業承継支援、再生支援といった取り組みにスムーズに移行出来ている。

3. 課題

解決提案・実行支援の割合の向上を目標としている中で、当初計画したアクションプログラムの評価指標のギャップが生じている。次年度は現状分析の割合が向上するように、ライフステージ分けも取り組んでいく必要がある。

4. 今後の対応方針(改善点)

次年度からは、商店街に立地しない事業所のライフステージグループ分けを充実させ、解決提案・実行支援の割合の40%達成を優先させながら、現状分析の割合を高めていく。アクションプログラムの評価指標の見直しも検討する必要がある。